

印旛沼の水草

文責：印旛沼流域水循環健全化会議委員 小倉久子

かつての印旛沼では、多くの水草が生えていました。しかし、水質の悪化や、水深が深くなったために、現在はその姿をほとんど見るができなくなっていました。

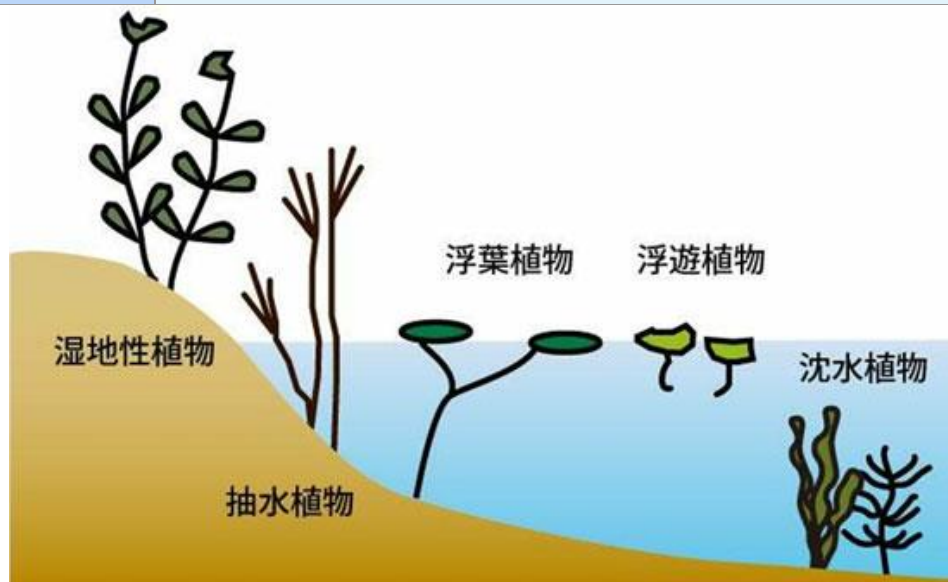
水草は、水質浄化や生きもののすみか・かくれを提供するなどのさまざまなをはたしており、水草の減少が、印旛沼の水質がよくなる理由の一つと考えられています。

そのため、千葉県では・植物を中心とした、水草をさせる取り組みをしています。

水草の種類

水草とは、湖、沼、ため池、川などの水の中で生える植物のことをいい、生育している場所によって次のようにされます。

湿地性植物 (しっちせいしょくぶつ)	根元が湿っている場所で育つものをいいます。 <u>ナガエツルノゲイトウ</u> (特定外来生物) 気候によって水をかぶることもあるので、抽水植物と完全に区別することは困難です。
抽水植物 (ちゅうすいしょくぶつ)	水底に根を張り、茎の下部は水中にありますが、茎か葉の少なくとも一部が水上に突き出ているものをいいます。 <u>ヨシ</u> (アシ) ・ <u>ヒメガマ</u> ・ <u>マコモ</u>
浮葉植物 (ふようしょくぶつ)	水面に葉を浮かべ、水底に根を張ったものをいいます。 <u>アサザ</u> (準絶滅危惧種) ・ <u>トチカガミ</u> ・ <u>オニビシ</u> (外来生物)
浮遊植物 (ふゆうしょくぶつ)	植物体が水面に浮かび、根は水中にたれて水底につかないものをいいます。 <u>イヌタヌキモ</u> (準絶滅危惧種)
沈水植物 (ちんすいしょくぶつ)	水底に根を張り、茎、葉まで水中にあるものをいいます。 <u>インバモ</u> (印旛沼では絶滅した) ・ <u>マツモ</u> (浮遊)



印旛沼の水草種類数の移り変わり

昭和 39 年には 47 種の水草が印旛沼に生きていましたが、印旛沼の水質悪化とともにし、平成 18 年の千葉県によるでは、11 種しか確認されませんでした。植物は、1 種もされませんでした。

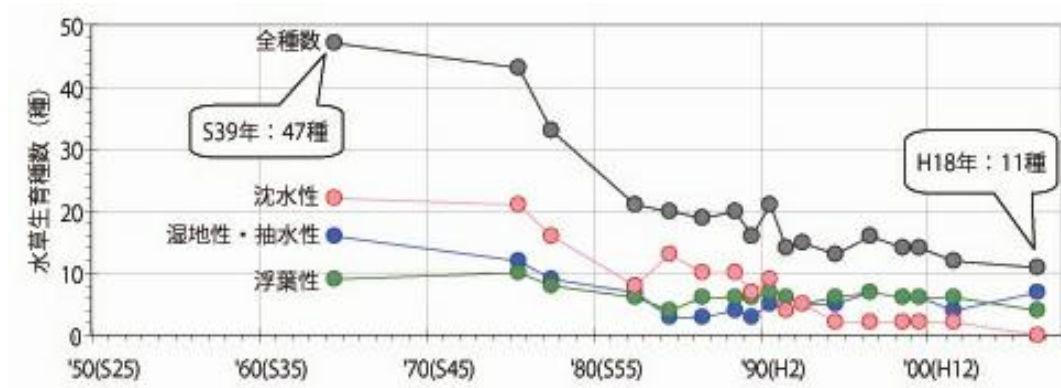


図 印旛沼の水草の生育種数の変移

水草の機能

- ・水質を良くするをもっています
- ・生きもののすみか、エサ場、として役立ちます
- ・水草のある水辺の風景は、心をいやしてくれます

印旛沼の水草を再生する千葉県の取り組み

印旛沼の底の泥の中には、昔の水草の種子がそのまま残っています。これらの種子は、何十年か後でも、太陽の光を感じると芽を出す可能性があるため、泥を浅い容器に入れて水を張り、太陽の光を当てて実験を行いました。実験は成功して、水草の芽が出てきたので、その成果を生かして植生帯（水草を育てる水域）を作っています。

これまで、印旛沼の 7 か所で植生帯を作りました。それぞれの地形条件等に応じて、水深を浅くしたり、沼の（にごった）水ではなくて、地下水や雨水などのきれいな水を使うなど、いろいろ工夫しながら、水草の再生方法を検討しています。



北須賀(北印旛沼)での水草再生



八代(北印旛沼)での水草再生

「いんばぬま情報広場」(<http://inba-numa.com/>)をもとに作成